

今月号から二本松市の昔ながらの
言い伝え、物語やその土地の由来を
ご紹介していきます。

No.01



あだち野のむかし物語

安達太郎

昔、田家が岡に安達太郎という武士が住んでいました。この奥方は飯坂城主佐藤氏の娘照姫というとてもきれいな人で、四歳になる子供もおり平穏な暮らしをしていました。

この頃、京都から派遣された多賀城の国司は色好みで、国内の美女を我がものにしようと、常に非道をして困らせておりました。そして、飯坂城主佐藤氏に「田家が岡の安達太郎の妻はおまえの娘で、たいそう美人と聞いた。その娘を私にくれ。」と差し出しを命じる無理難題を申しつけたのです。

佐藤氏は、思いあまり、婿を殺して、娘を差し出すほかにないと考えて、太郎夫婦には自分が病氣と偽って、二人を飯坂城に招いたのです。照姫の付き添いの賢い腰元が謀で見破り二人に危急を知らせたので太郎は大いに驚き、照姫を連れて帰ろうとしましたが、すでに田家が岡は多賀城の家来たちによって占領され

てしまっていました。

そこでやむをえず、安達太良山の山奥にしばらく隠れ潜んでいました。やがて都に出た安達太郎は、この国司の数々の悪行を都の役所に訴え出たので、国司は流罪の処罰を受けました。

時が過ぎ、安達太郎は再び田家が岡に戻り安達の郡司となりました。

「この話は、畠山氏三代目の畠山国詮（幼名大石丸）が幼少のころの一つの伝説であるともいわれています。伊達行朝事暦によれば、この田家が岡を「国司館」と呼び、国司北畠頭家が居館していたとも伝えられています。さらに源頼朝の奥州平泉征討の時には、小野田藤九郎（安達盛長）も居館し「殿家が岡」とも呼んでいましたが、今は田家が岡といわれています。」

ずーっと、ずーっと、昔ナイ。



あだち野のむかし物語
安達地方広域行政組合
ウェブサイト

二本松警察署からのお知らせ

犯罪発生状況(令和6年1月～7月末)

	二本松地区	安達地区	岩代地区	東和地区	不明等	合計	前年対比
侵入盗	1	1				2	-1
空き巣	1	1				2	-3
出店荒し	1	1				2	-3
その他	1	3		1		5	-5
非侵入盗	5(3)	8(2)				13(5)	-7
万引き	4	1				5	4
車上ねらい	14(3)	14(9)	19(12)	8		55(24)	25
その他	2	1				3	-8
自転車盗	2	1				3	-8
器物損壊	2		1			3	
住居侵入	1			1		2	1
その他	9(2)	3	2		2	16(2)	-11
合計	40(8)	32(11)	22(12)	10	2	106(31)	-5
前年対比	-20	-2	11	6		-5	

※()は7月の発生件数



地域で子供の見守りを!!
日常生活の中、気軽にできる
「ながら見守り」活動の
協力ををお願いします。



～福島県警察スマートフォンアプリ～

今すぐ!

POLICEアプリふくしま
のインストールをお願いします。



みなさんが
被害に遭わないための
最新機能を搭載しています!

インストールはこちら



二本松警察署電話 23-1212